

輸液に直接マジックで記載すると 成分が患者体内に移行します

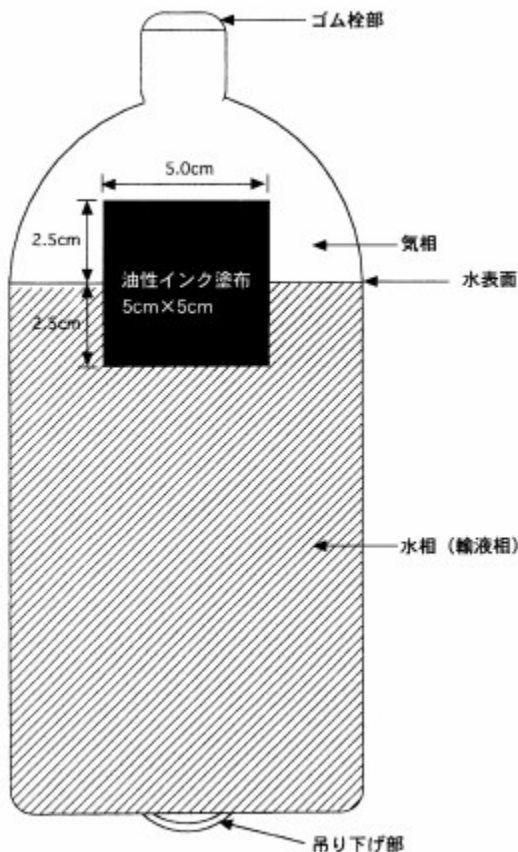


Fig. 1. 試料採取用プラスチック製輸液容器

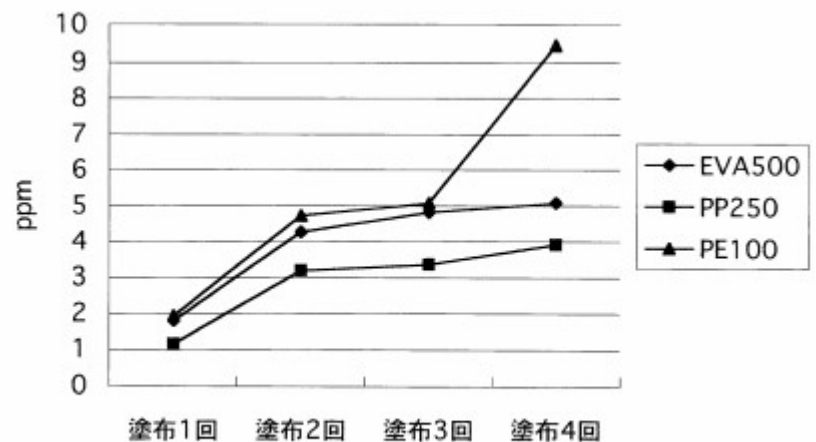


Fig. 7. 消去溶媒に石油ベンゼンを用いた際の気相中のキシレン濃度

医療薬学 Vol29. No.2(2003)によると、輸液と同様の容器に「油性マジックインク」で、直接記載した場合に、気相(容器内部)にマジック成分が流出することが確認されています。(特にキシレン)

これらは、容器内の気相中にのみ存在し、水相には存在しませんでしたので、輸液内部に点滴される危険性はあまり無いと言えるようです。しかしながら、近年、マスコミで取り上げられる「化学物質過敏症」は、極微量の原因物質でもアレルギー様症状を示すと共に、微量物質が蓄積して症状が持続するとも考えられています。また、本来、存在し得ない物質が医薬品と共に内部にある事は、好ましい事ではないとされている。

Non Xylene(キシレンを含有しない)と記載された製品であっても、別の溶剤が内部に侵入する可能性があるため、安全であるとは断定できないとされている。

- ・容器に「ラベル」を貼った上で、マジックインクで記載しても気相には、何も現れない
- ・当院では、輸液に記載する必要がある場合、容器に「ラベル」を貼った上で、記載しましょう

より安全な医療をみんなで行っていきましょう!!